

海の日

7月16日は「海の日」、多くの方は3連休を楽しまれたことと思いますが、残念ながら、「海の日」に対する人々の関心は余り高いようには思えません。

「海の日」は、「海開きの日」と勘違いしている人がいないとも限りませんが、元々は「海の記念日」といわれていたものです

この「海の記念日」は、明治天皇が1876年（明治9年）東北・北海道を巡行された際、7月16日青森で灯台巡視の汽船「明治丸」にご乗船され、函館を經由して7月20日横浜港に無事帰着された事を記念し、1941年（昭和16年）に制定されたものです。

その後「海の記念日」は、1995年（平成7年）に「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」ことを趣旨とする「海の日」として国民の祝日に加えられる事になりました

「海の日」の制定当初は7月20日でしたが、2003年（平成15年）の祝日法改正によるハッピーマンデー制度により、7月の第3月曜日に変更され、今日に至っています。

私が子供の頃、日本は資源のない小さな島国で、外国から資源を輸入し、工業製品を輸出することでなっていた貿易立国であると教わりました。

確かに、日本は、国土面積が約38万km²、世界の中で60番目という小さな島国ですから、諸外国との関わりの中で生きていかなければならないという構造は、今日においても変わるものではありません。しかし、日本が資源のない小さな国という従来のイメージは、今後、日本を取巻く海によって大きく変わっていくだろうと思います。

世界の海は、国際的に次の3つに分けられています。

- ・領海 沿岸国の主権が及ぶ海域（領海の基線から12海里以内）
- ・接続海域 沿岸国が密輸や不法入国を取り締まる権利を有する海域（領海の基線から24海里以内）
- ・排他的経済水域 沿岸国に経済的な管轄権が与えられているが、他国の航海

に際しては自由通航となっている海域（領海の基線から200海里以内）

日本は、先ほど述べたように、国土面積は約38万km²に過ぎませんが、領海と排他的経済水域を合わせた面積は国土面積の約1.2倍、約450万km²もあり、これは世界で6番目という大きさです。しかも、この海域には莫大な資源が眠っている可能性がありますので、日本は、小さな島国というより、大きな海洋国家というべきでしょう。

とはいえ、海に囲まれているというだけでは、海洋国家としての発展は難しいというのも現実です。

今後、漁業資源や鉱物資源を如何に開発していくか、海の安全を如何に守っていくか、更には海の環境を如何に保全していくか、こうした大きな課題に対して、国を挙げての取組が問われています。

特に、日本は、中国や韓国と尖閣諸島や竹島などの領有権を巡って厳しいせめぎあいが続いていますが、その背景は海底に眠る資源にあり、対応を誤れば、領土も資源も事実上失うことになりかねません。

政府には、海洋資源の開発にしっかりとイニシアティブを取って欲しいと思いますし、何より、領有権問題で揺れる周辺諸国とは、国益を失うことのないよう、強力な外交力を発揮して頂きたいと思います。

国では、「海の日」を挟んで7月1日から31日までを「海の月間」と定めており、全国各地で海に対する知識や理解を深めるための様々なイベントが行われています。

私たちもこの機会に、海洋国家日本の将来に思いを馳せてみては如何でしょうか。（塾頭 吉田 洋一）